

第11話 学校研究 高校入試編⑥

これまで紹介していない、早慶付属校をまとめてみましょう。

平成29年度は、慶應義塾高校の試験日が2/10に変更されました。昨年度に続き、特に男子にとっては、重大な発表です。

例年、女子は早稲田本庄に始まり早稲田実業or慶應女子を選択、そして2/12のSFC。男子は慶應志木から、早慶を網羅できるスケジュールでした。しかし、来年度は慶應義塾高と早稲田実業、また開成などといった学校の試験日が重なることとなります。また、2次試験日が学芸大附属などとも重なるため、今までより受験校を絞る必要が出てきました。今後の動向が興味深いです。

とはいえ、みなさん行ける学校は一つ。本命を定め、愚直に勉強するしかありません。

まずはそれぞれ、概要を見てみましょう。

慶應義塾志木

試験日は2/7。

帰国卒の出願資格は、通算1年10ヶ月以上の海外経験があり、帰国後1年以内であること。

早稲田大学本庄

試験日は2/9日。

直近3年間で、2年以上の海外経験があること。これに当てはまらない場合、直近7年間で4年以上の海外経験があること。

慶應義塾高校

試験日は2/10日。

継続して1年10ヶ月の海外滞在、もしくは、海外の中学で2つの学年を修了していること。

また、帰国後1年以内であること。（中1～中2か、中2～中3を海外で過ごした。）

早稲田実業

試験日は2/10。

滞在期間が1年9ヶ月～3年未満の場合、帰国後1年以内であること。

滞在期間が3年以上の場合、帰国後2年以内であること。

慶應義塾女子

試験日は2/10。

海外滞在が継続して20ヶ月以上あり、帰国後1年以内であること。

早稲田大学高等学院

試験日は2/11。

海外滞在が継続して1年9ヶ月以上あり、帰国後1年9ヶ月以内であること。

慶應附属の方が規定が厳しい印象ですね。帰国生の募集は若干名との表記が多いですが、おおよそ20～30名の合格者が出ています。帰国生の合格倍率は2倍程度ですが、3倍を超える一般生よりは、有利といえるでしょう。

さて、早慶における帰国卒とはどのようなものなのでしょうか。大前提として、これらの学校は一般入試

と試験日が同じ、つまり、一般入試と同じ問題を解くことになります。

早稲田実業を見てみましょう。

2016年度合格者の中に、「帰国生規定合格者」という数字が見えます。これは、帰国生男子合格者41名のうち、37名が一般と同じ審査の中で合格。それに届かなかった4名が、帰国枠として合格したということですね。

慶應志木は、一般生と帰国生を別枠で審査。帰国生は帰国生同士で争います。

ここであえて言いましょう。早慶受験に帰国枠は関係ありません。早実の結果から分かるように、合格できる帰国生は、一般枠で合格できる実力を持っています。

小細工は何もありません。英語で稼ぎ、国語数学で離されないこと。この点では、とてもシンプルな帰国受験と言えますね。一般生に負けない国語力・日本語力を育てること。そして、ひたすら数学と戦いましょう。

簡単に言ってしまいましたが、これらの学校の入試問題は、教科書レベルの勉強ではとても追いつきません。まずは、中3の夏までにしっかりと単元を終えましょう。そして、過去問に打ちのめされるところから始まります。同じ問題でも繰り返し行い、問題を見れば解法が浮かぶようにすること。これを入試までにどれだけ出来るかが勝負です。

骨の折れる慶女の国語、悪名高い早実の数学。今後は問題研究も予定していますので、一緒に勉強していきましょう。

著者：谷口 仁
Sep 20 2016